

I 理事長挨拶

地方独立行政法人岩手県工業技術センター
理事長 箱石 知義



皆様には、日頃から岩手県工業技術センターをご利用いただきありがとうございます。

当センターは、平成18年に地方独立行政法人へ移行して以来、これまで4期20年にわたり、自主性と自律性を生かした効率的かつ効果的な業務運営に取り組むとともに、第4期中期目標期間（R3～R7）においては、質の高い技術支援を基本に、東日本大震災津波からの復興、医療機器関連産業をはじめとした地域産業の活性化、技術相談等の基本的な技術支援、研究開発による新製品・新技術開発、課題解決型の産業人材育成など、企業等の多様なニーズに応える取組を推進してきました。

一方で、企業等は、労働力不足や原材料・エネルギー価格上昇などの厳しい経営環境の中、加速する技術革新に適応しながら、デジタル化やカーボンニュートラルへの対応など、複雑で多様な課題に直面しています。

こうした状況を踏まえ、令和8年度からスタートする第5期中期計画では、企業等の確実な成長と新たな価値の創造や次なる中核産業の創出・育成につなげていくため、質の高い技術支援を基本に、①DX導入への支援を通じた工程改善等による生産性の向上、②シーズの創生から事業化まで幅広い分野にわたる研究開発による新たな価値の創出、③産業を支える技術人材の育成、を重点に位置づけ、センターの経営資源の効果的・効率的配置等による機能強化と業務運営の安定を図りながら、本県産業の持続的な発展に向けた支援を着実に実施してまいりたいと考えておりますので、是非、お気軽にご相談、ご利用いただければと思います。

結びに、当センターは、今年度も引き続き基本理念である「創るよろこび、地域貢献」のもと、企業等の成長につながる研究開発、技術相談、さらには県政課題の解決に向けた様々な取組により、企業等や地域の発展に大きく貢献できるよう、より一層の技術・研究資源の充実を図ってまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

II 令和8年度事業計画について

第5期中期計画（令和8～12年度）に基づき、効果的に企業支援を進めるため、令和8年度の事業計画を策定しました。

中期計画に示した3つの重点項目（①デジタル技術による生産性の向上、②シーズ創生から実用化までの一貫した研究、③人材育成）を実現するため、以下の取り組みを実施して参ります。

- ・電子情報システム部とDX推進特命部を統合し、「ものづくりDX推進部」を新設し、デジタル技術活用やDX導入支援を重点的に推進します。
- ・県内企業のニーズや課題を的確に把握するため、企業訪問を積極的に実施します。
- ・県からの受託事業を活用し、DX導入やロボット・AI活用による生産現場の省力化・高効率化を目指した人材育成支援を実施します。
- ・事前ヒアリングに基づいて選定した講師を企業へ派遣する、派遣型の講習会を実施することで、現場が抱える課題を直接解決します。
- ・設備機器貸出では、利用者へのサポート体制を強化するため、新たに「操作指導料」を設け、装置使用時にサポートが必要な方や、装置の習熟度向上を希望する方への支援を充実させます。
- ・研究開発では、県からの運営交付金を活用し、研究部が横断的な体制で取り組む「戦略研究事業」を推進し、関係機関とも連携しながら、将来の大型研究事業へとつなげていきます。
- ・得られた研究成果は、技術移転や知財の権利化を進めるとともに、技術情報誌やウェブサイト等による成果発信、外部発表、プレスリリースを通じて、積極的に情報発信を行います。

詳細はこちら



年度計画



業務一覧



技術情報

岩手県工業技術センター
Iwate Industrial Research Institute

公式サイト



2026. 5
No. 46

Ⅲ 新規事業のご案内

次世代放射光施設ナノテラス利活用推進体制構築事業

3GeV高輝度放射光施設「ナノテラス (NanoTerasu)」は、宮城県仙台市の東北大学キャンパス内に設置され、令和6年4月から運用が始まりました。放射光施設は、強力な光を使って物質の状態を詳しく調べる、巨大な顕微鏡のような研究設備で、国内にはSPring-8など複数の施設があります。

ナノテラスでは、3GeVの高輝度放射光を使って、ナノレベルの構造や電子状態を高精度で観察できます。材料、デバイス、バイオ分野など幅広い研究に役立つため、大学だけでなく産業界での活用も期待されています。東北地域では、中小企業が利用しやすくなるよう官民が連携し、利用のための補助制度も整えられています。しかし、試料の準備やデータ解析など専門的な作業が多く、企業が自力で利用するにはまだハードルが高く、岩手県

内には相談できる専門機関もありません。そこで今年度から県の委託を受け、放射光を使った測定技術の蓄積や、県内企業の技術課題への適用調査を実施します。技術の普及と支援体制を整え、放射光施設を活用した企業の技術力向上や高付加価値製品の開発支援を進めていきます。



いわてイノベーション推進リサーチパーク

[地域中核大学イノベーション創出環境強化事業]

「いわてイノベーション推進リサーチパーク (通称：I-waRP【アイワープ】)」は、岩手大学が中心となり、岩手県、盛岡市、いわて産業振興センター、岩手県工業技術センターが連携し、研究成果の社会実装から地域産業振興までを切れ目なく支援するエリアネットワーク型のイノベーション拠点です。参画機関の支援人材が結集して、下記のようなメニューで、企業の新製品開発、新たなサービス創出、スタートアップ育成を行い新たな価値を創造するイノベーション・エコシステムを形成します。

1 エリアネットワーク型のイノベーション拠点

岩手大学、岩手県、盛岡市、いわて産業振興センター、岩手県工業技術センターが連携して運営。物理的な一箇所に集約するのではなく、地域内の研究施設・設備・人材をネットワーク化して活用します。

2 研究から社会実装までをワンストップ支援

関係機関が保有する300台以上の共同利用機器、研究施設のデータベース (アセット管理システム) を整備し、企業・研究者が利用可能。技術相談、知財、マーケティ

ング、資金調達など、専門家による総合支援を提供し、新製品開発、スタートアップ育成を強力に後押しします。

3 岩手コーディネートネットワーク

各機関の専門人材が「一つの屋根の下」で協働する体制を構築し、企業ニーズに応じた研究シーズ紹介、共同研究マッチング、事業化支援を実施します。



HP



紹介Youtube

依頼試験・機器貸出料金を改定し、操作指導料を新設しました

消耗品等の価格上昇等を踏まえ、依頼試験等手数料及び機器貸出使用料の料金を令和8年4月1日に改定しました。この度の料金改定に併せ、機器貸出では、装置使用でサポートが必要な方や、装置の習熟度を向上したい方のために、研究員が機器操作方法の指導等を行えるようになりました。指導には操作指導料2,700円/時間が必要です。操作指導料が発生する条件等につきましては、当センター企画支援部までお問い合わせ願います。

※機器貸出料金には、職員の人件費は料金に含まれて

おりませんが、利用者から研究員の同席や操作方法の指導等を求められる場合があることから、操作指導料を新たに設けるものです。



依頼試験
料金一覧



貸出機器
単価一覧

Ⅳ 主な活動実績

AIを活用した工具摩耗診断システムの開発 [技術シーズ創生・発展研究事業(発展研究)]

電子情報システム部
(現:ものづくりDX推進部)

精密金型の製造企業では、金型の切削加工のコスト削減や環境負荷低減が求められており、エンドミル工具は寿命の限界まで使用されています。工具寿命の判断は、熟練者が目視や手の感触によって刃の摩耗の度合いを判定していますが、判定のばらつきや、判定技術の習得に時間がかかるなどの課題があり、熟練者に頼らない判定方法が望まれています。そこで本研究では、カメラで刃先を撮影し、AIを用いて工具摩耗を自動判定するシステムを試作しました。

このシステムは、実際に現場で熟練者が分類したφ6mmスクエアエンドミル15本の刃先の状態をAI学習して構築しました。システムの評価は、専用機構AIとロボットアームAIの2つの方法で実施し、AI学習に使用していない荒加工用3本と廃棄3本のエンドミルに対して、両方とも、全て熟練者と同じ判定結果となりました。

専用機構AIは、図1上写真のように倍率300倍のマイクロスコープで刃先を拡大し1刃ごとに回転して判定を行い、刃数が2枚や3枚と異なっても判定可能な特長があります。また、ロボットアームAIは、図1下写真のように4枚刃を1画面に収める方法で、瞬時に判定

が可能な特長があります。今後、このシーズを生かして、関連企業との共同研究などを通じて、実用化を目指す予定です。

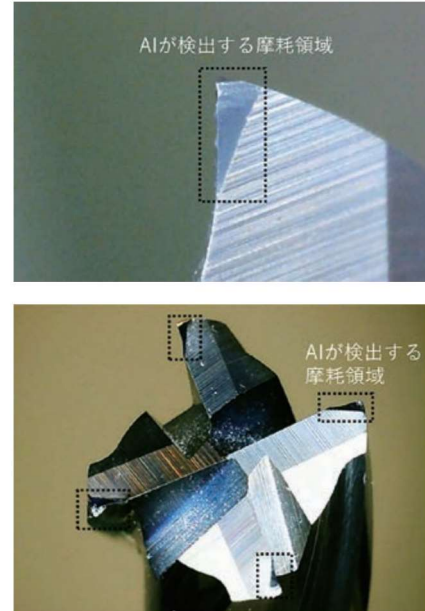


図1 学習に用いた画像
上:専用機構、下:ロボットアーム

公設試連携による水産業のDX支援 [令和6・7年度公設試等連携推進事業]

DX推進特命部
(現:ものづくりDX推進部)

近年、海洋環境の変化に左右されにくく安定した生産が見込める陸上(内水面)養殖が有望視されています。しかし、内水面養殖業者では担い手の減少と高齢化が進んでおり、生産性の向上と養殖規模の維持・拡大に対応するためには、作業の省力化、自動化を進める必要があります。

そこで、岩手県内水面水産技術センターと連携し、水産業のDX支援として令和6年度は「デジタル式移送魚自動カウント装置」、令和7年度は「魚卵の硬さ測定装置」を開発しました。今後も、県内企業のデジタル化やDX推進のため、支援を継続して参ります。

[デジタル式移送魚自動カウント装置]

稚魚の成長に合わせて生簀間の移送を行う際、ホース内を移送される魚数を自動カウントする装置です。これまでは人力で数えていた移送魚数を、自動的かつより早く正確にカウントすることが可能です。

対応魚体サイズ: 25cm~30cm程度
カウント誤差: ±2%以内



図1 移送魚自動カウント装置

[魚卵の硬さ測定装置]

サケ・マス類の卵に散発的に発生し卵の致死、早期孵化等を発生させる「卵膜軟化症」への対応要否を判断するため、魚卵の硬さを測定する装置です。これまで熟練者の感覚に頼っていた判断を、定量的な数値で判断できるようになります。

測定荷重範囲: 1gf~3,000gf 分解能1g
対応魚卵サイズ: 直径3mm~12mm程度

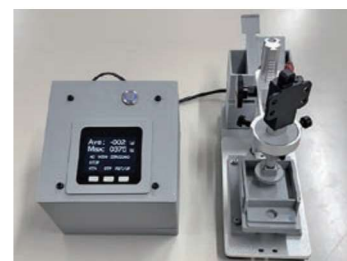


図2 魚卵の硬さ測定装置

ウエットプロセスによる樹脂表面改質技術の開発

機能材料技術部

[技術シーズ創生・発展研究事業(発展研究)]

電気・電子部品の電磁波シールドやプリント配線板、パッケージ基板およびアンテナ部品などの回路形成に樹脂へのめっき技術が使用されています。Beyond 5G(6G)に向けた次世代通信において、エレクトロニクス実装部品には、部品の基板表面を粗化せずに、平滑樹脂基板へ密着性の高いめっきを形成する技術が求められています。そこで本研究では、ウエットプロセスを用いて平滑・高密着めっき形成のための樹脂表面改質技術を開発することとし、分子接合技術※との組み合わせにより樹脂とめっき界面粗さRa 0.3 μ m以下、めっき密着強度0.5kN/m以上を目標とし研究を行いました。

ウエットプロセスとして、オゾン水処理、超音波処理、ファインバブル処理等の方法を表面改質として評価しました。その結果、ファインバブル処理を用いた表面改質では、樹脂表面の酸化状態を示すO/C比の値が処理時間とともに増加することが確認されました。また、樹脂表面の濡れ性を示す接触角も未処理時に80°であったものが、処理後には50°程度に低下し、表面改質に有効であることが明らかになりました。ファインバブルとは、100 μ m未満の微細気泡のことです。樹脂表面の不純物洗浄、微細

構造の改質等の物理的効果や酸化作用によるCOOH基やOH基の導入等の化学的効果が期待される技術です。

未処理ではめっきが未析出であった樹脂の立体成形体(図1)に対し、ファインバブルおよび分子接合処理を行うことによって、細部までムラなく、全面に析出させることに成功しました(図2、めっき界面粗さはRa 0.06 μ m)。密着強度は目標値の半分程度でしたが、ウエットプロセスがめっきの析出性向上に有効であることが明らかになったため、継続してめっき密着性の向上を図ります。

※ 化学結合(共有結合)を原理とする岩手発の接合技術



図1 未処理
(めっき未析出)



図2 ファインバブル+分子接合処理
(全面めっきに成功)

コールドスプレー法による光触媒材料成膜技術の開発

素形材プロセス技術部

[さんりく基金令和7年度調査研究事業]

光触媒は光を照射することで有機物や細菌等の有害物質の分解や空気を浄化することができる材料です。コールドスプレー法は金属等の粒子を高速で基材に衝突させ皮膜を形成する方法で、成膜時の粉末や基材への熱影響が少ない優れた特徴があります。光触媒材料の酸化チタンは、硬く脆いセラミックス材料のためコールドスプレー法では皮膜と基材の密着力が低いことが課題でした。そのため有機系材料をバインダー層として成膜していましたが、生産タクトが長いことが課題となっていました。そこで本研究では、無機材料の「スズ(Sn)」をバインダー層とする手法を開発しました。スズは展延性に優れており、コールドスプレー法との相性が良く、基材と強固に密着し軟らかい皮膜が形成されます。その上に硬い酸化チタン粒子をスプレーすると、スズ皮膜に粒子が突き刺さる形で皮膜が形成されます。この手法により、従来法に比べ大幅な成膜タクトの短縮が可能となりました。

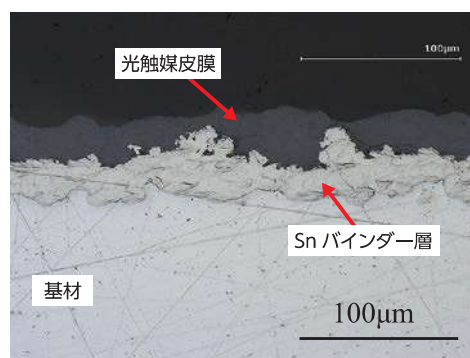


図1 光触媒皮膜断面写真



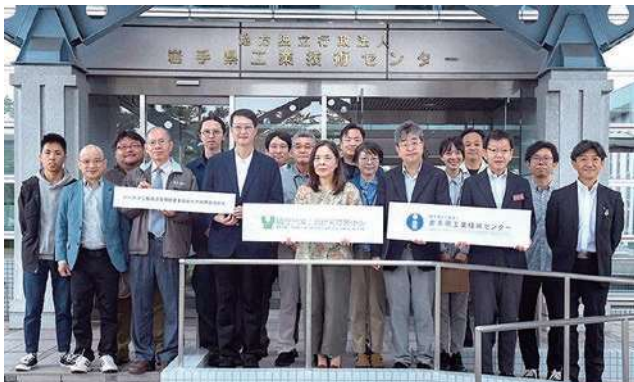
図2 成膜状況

漆工芸産業への支援に関する取組み

産業デザイン部

【国立台湾工芸研究発展センターとMOU締結】

国立台湾工芸研究発展センターとは、令和5年から漆とその関連分野の事例紹介や台湾の漆林視察などの漆に関わる交流を進めてきました。令和7年8月には、工芸に関わる知識共有、技術・デザイン研究、人材育成などの友好協力関係構築に関するMOU(覚書)を締結しました。同年10月には台湾の公設研究員、大学教授、漆作家など7名が来県され、浄法寺漆共進会や県北・奥州地域の工房を視察し、漆に関わる工芸関係者と交流を行いました。



視察の様子

【漆工新規技術導入支援講座の開催】

漆工芸に関わる県内事業者を対象に、多様化するニーズへの対応力や付加価値の向上を目的とした講座を企画しました。講座は、①新規技法の習得、②他産業との連携に必要な漆工技術習得や協業事例学習、③他産業事業者向けの普及啓発、の3テーマ計5回を開催しました。本講座は岩手県の委託業務により実施したものです。

①漆工新規技法習得講座

令和7年12月

「卵殻・蒔絵技法の習得」



②他産業連携に必要な漆工技術の習得講座

令和7年12月

「他産地の漆工技術の知る

+デザイナーとの協業事例」

令和8年2月

「これからの売り方や技術

・デザインの生かし方」



③他産業向け基礎講座

令和8年2月

「岩手県産漆の魅力と活かし方」

「秀衡塗の工房で学ぶ岩手の漆」



好評です！ 個別課題に対応した人材育成事業(受入型・派遣型)

県内企業の生産性向上や付加価値創出に向けた技術力・開発力の強化を図るため、企業が抱える個別課題に対応した人材育成事業を実施しています。

受入型の取組では、一定期間にわたり企業人材を受け入れ、AI・デジタルツールや協働ロボットの活用、製品の低コスト化に向けた設計ツールの活用、新製品開発や生産効率向上のための製造技術・分析手法の習得など、企業ニーズに応じた内容で工業技術センターの研究員が伴走しながら人材育成支援を行っています。

また、派遣型技術支援として、企業現場へ講師を派遣する社内講習も実施しています。この支援では、事前ヒアリングで把握した企業課題に基づき講師を選定し、企業の現場で実施することで、社員が参加しやすく、普段使用している設備を活用した実践的な講習を実施しています。

人材育成にはいくつかのメニューがあります。詳しくは、工業技術センター企画支援部までお問い合わせください。



プログラミングの個別指導



装置活用方法の個別指導



企業現場での講習(溶接)

ビール系酒類の試験醸造を開始

醸造技術部

[技術シーズ創生・発展研究事業(発展研究)]

クラフトビール人気の高まりを受けて県内でも醸造所が増加しており（令和8年現在16社19製造場）、当センターでもビールや発泡酒に関する技術相談が急増しています。また、令和6年4月にはクラフトビールの更なる普及促進と品質向上を目指して、県内ブルワリーが「岩手クラフトビールアソシエーション(ICA)」を設立しました。このような背景から、当センターではビール系酒類の試験研究を加速するため、発泡酒の試験醸造免許を取得し、ビール系酒類を試験醸造する仕組みを導入しました。ビール系酒類は清酒やワインとは異なり、発酵液中の固形分が少なく、物理的にかき混ぜる必要がありません。そのため、出来上がるビール品質は発酵によって自然に起こる液体の対流に大きな影響を受けます。また、炭酸ガスを有する醸造酒であるためラボスケールでカーボネーションする仕組みが必要です。今回、小スケールでも発酵液の対流を再現できる発酵容器を検討するとともに、炭酸ガスを溶解させるためのカーボネーション工程を構築し、200mL~20Lスケールのビール系酒類を試験醸造することが可能となりました。今後は新たなビール用酵母の開発や、県産麦芽やホップの評価を継続し、得られた研究成果は

ICAの活動や県内ブルワリーとの意見交換などを通して普及を進める予定です。



図1 20Lスケールの糖化装置と発酵容器



図2 極小スケール発酵試験とカーボネーション

ヤーコンの加工品開発(6次産業化)

食品技術部

[研究開発型人材育成支援事業]

共同研究企業：平泉町地域おこし協力隊

「ヤーコン」は南米アンデス原産のキク科の根菜で、サツマイモに似た見た目をしています。ヤーコンの特徴はシャキシャキとした食感、ほのかな甘み、豊富なポリフェノールです。さらにフラクトオリゴ糖も豊富であるため、腸内環境の改善やカルシウムの吸収促進が期待できます。岩手県平泉町ではヤーコンの栽培拡大を目指しており、本事業では新たなヤーコン加工品開発を目的に試験を行いました。

開発の課題として、糖分に変換される炭水化物が少ないことや、ポリフェノールによって褐変しやすい点がありましたが、糖分調整や乾燥条件等を試行錯誤した結果、ヨーグルトにも合うような甘酸っぱい味わいのヤーコン加工品を完成させました（図1）。開発したヤーコン加工品は流通販売のしやすさや、子供達への食べやすさを商品コンセプトとしています。

県内外で行われた展示会では「レーズンよりこちらの方が好き。」「バリエーションが広がる。」等の反

響をいただいています（図2）。現在は、商品の発売目標を令和9年春頃とし、工業技術センターのデザインラボにて商品デザイン設計を支援しており、今後の展開が期待されます。



図1 完成したヤーコン加工品



図2 展示会のヤーコンブース

V 新規導入設備

EMC試験システム [公益財団法人JKA公設工業試験研究所等における機械設備拡充補助事業]

EMC評価ラボで対応する各種EMC試験設備について、最新規格への対応および対応規格拡充のため、装置を更新・導入しました。



← 詳細はこちら！

装置名	メーカー・形式	対応規格
静電気放電試験器(更新)	㈱ノイズ研究所 ESS-PS1>-31S(放電ガン)	・IEC/EN61000-4-2 Ed.3(2025) ・ISO10605 Ed.3(2023)
ファスト・トランジェント/ パースト試験器	㈱ノイズ研究LSS-6330-B63	・IEC/EN61000-4-4 Ed.3(2012)
車載電装品 放射/伝導EMI測定システム	㈱東陽テクニカ ES10/VE	・CISPR25 Ed.5.0(2021)ALSE法(放射)、 電圧法/電流法(伝導)
医療機器 磁界イミュニティ試験システム	㈱東陽テクニカ IM10/CS	・ISO60601-1-2 Ed.4.1(2020) ・IEC61000-4-39 Ed.1.0(2017)

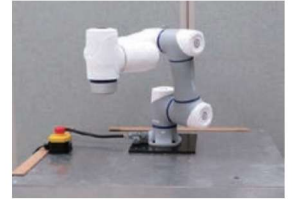


協働ロボット [令和7年度実践型人材育成事業(県からの委託事業)]

協働ロボットは、作業者と同じ製造ライン等で防護柵無しで共に作業を行うことができる、生産現場に導入しやすいロボットです。高度なセンサーで衝突を検知して停止する安全性を備え、専門的知識が無くても直感的な操作が可能です。生産性向上や人材不足対策のための工程自動化のためのシステム開発に活用していきます。

【型式】DOBOT社 CR3A

【仕様】可搬重量:最大3kg
最大リーチ:620mm
繰返し精度:±0.02mm
安全機能:衝突検知/非接触停止
マルチデバイス操作性:PC・タブレット対応による直感的な教示(ティーチング)



自動研磨機 [運営費交付金]

材料組織観察をはじめ、硬さ測定、成分分析等様々な観察に用いる試料の表面を均一かつ再現性高く研磨するための装置です。タッチスクリーンインターフェースにより誰でも簡単に操作できます。

【型式】BUEHLER エコメット30 オートシングル

【仕様】全体荷重モード、個別荷重モードに対応
(適応試験片サイズ:1インチ)
研磨盤回転数:50~500rpm
試料ホルダ回転数:30~200rpm

【料金】2000円/時間(消耗品は別途準備)



HPLC用蛍光検出器 [運営費交付金]

物質に特定の励起光を照射し、その蛍光から成分の特定・定量を行う検出器です。選択性と感度に優れた検出方法であり、アミノ酸一斉分析などに活用できます。高速液体クロマトグラフ(Nexera XR40)の検出器としてご利用いただけます。

【型式】株式会社島津製作所 RF-20AX

【仕様】励起波長 200~750nm
検出波長 200~750nm
セル温調 室温-10℃~40℃
セル耐圧 2MPa

【料金】700円/時間



VI 受賞・表彰

令和7年度伝統的工芸品産業功労者等表彰・東北経済産業局長表彰功労賞 [公的機関の職員・学識経験者等]

受賞者:素形材プロセス技術部 池 浩之

本表彰は、伝統的工芸品産業の振興を目的に、伝統的工芸分野に貢献した功労者に対して贈られるものです。岩手県の伝統的工芸品である南部鉄器産業において、公設試験研究機関の職員として技術的な支援や高度化に資する研究に取り組み、その振興に貢献した功績が評価され、受賞の運びとなりました。

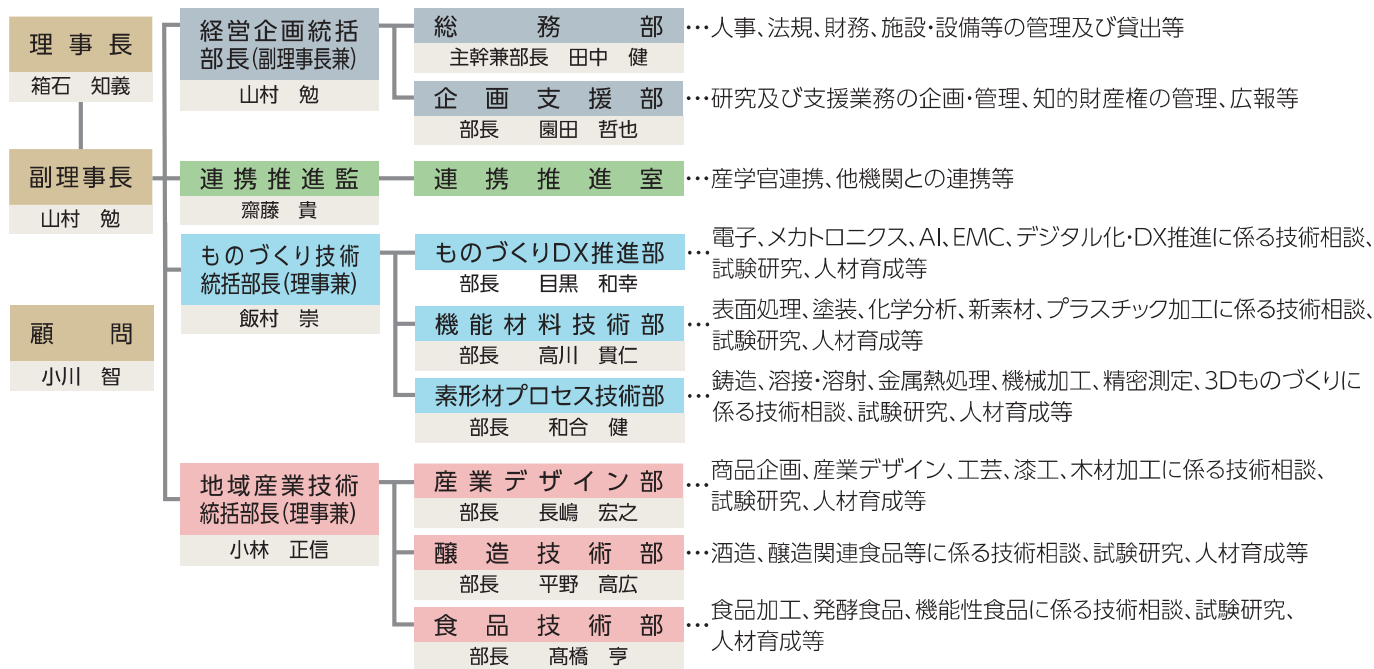


県内企業と共同でグッドデザイン賞を受賞!

(株)リードと共同で、2025年度グッドデザイン賞を受賞しました。受賞対象は、(株)リードが製造・販売する「ほっと安心帽®」です。薄い衝撃吸収材が内包された児童向けのカラー帽や紅白帽で、頭部をぶつけた際の衝撃を軽減する安全性の高い帽子です。同製品の開発に当たり、設計や試作、製品テストなどの技術支援を行いました。



Ⅶ 令和8年度組織、人事異動情報



● 退任

理事長 熊谷 泰樹
顧問 岩淵 明

● 就任

理事長 箱石 知義
顧問 小川 智

● 退職

産業デザイン部 主任技術専門員 茨島 明
食品技術部 主任専門研究員 武山 進一 (再任用任期満了)

● 転出(転出先)

総務部 長 荒濱 清一 (岩手県立産業技術短期大学校矢巾校)
主査 鳥居 哲男 (岩手県土地開発公社)
企画支援部 専門研究員 渡辺 久 (岩手県商工労働観光部ものづくり自動車振興室)

● 転入(旧所属)

総務部 主幹兼部長 田中 健 (岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室)
専門幹 小川 哲也 (岩手県商工労働観光部経営支援課)
企画支援部 主 任 野中 里菜 (岩手県商工労働観光部ものづくり自動車振興室)

Ⅷ 関係機関



岩手県発明協会は、発明の奨励、青少年等の創造性開発育成、知的財産権制度の普及啓発を行っています。

知的財産権制度の普及啓発事業の運営

1 「INPIT岩手県知財総合支援窓口」
中小企業等が抱える知的財産に関する悩みや課題について、関係機関等と連携して、ワンストップで解決に導きます。

こんな時にご相談ください

- 新技術開発のための技術情報を収集したい
- 技術開発成果の製品化から市場展開までの支援を受けたい
- 他者が保有する権利を侵害しないか調べたい
- 社内に継続的に知的財産を生み出す仕組みを構築したい

2 岩手県「知的財産活用サポートセンター」
高付加価値化に資する知的財産の活用促進を図るコーディネート活動や日本弁理士会・関係機関との共催による知財セミナー開催、若者を対象とした知的財産教育授業開催



発明の奨励
(岩手県発明くふう展の開催)



青少年等の創造性開発育成
(少年少女発明クラブの夏休み交流会)



岩手県
発明協会HP



INPIT詳細は
こちら



技術情報No.46 令和8年5月発行
編集/発行
地方独立行政法人岩手県工業技術センター企画支援部

〒020-0857 / 岩手県盛岡市北飯岡二丁目4番25号
TEL 019-635-1115(代) FAX 019-635-0311
ホームページ <https://www2.pref.iwate.jp/~kiri/>
電子メール CD0002@pref.iwate.jp

20260518-4000

QRコードのリンク先一覧

1 ページ

岩手県工業技術センターホームページ：<https://www2.pref.iwate.jp/~kiri/>

令和8年度事業計画：https://www2.pref.iwate.jp/~kiri/public_info/plan/pdf/R8keikaku.pdf

業務一覧：https://www2.pref.iwate.jp/~kiri/about/service_list.html

2 ページ

いわてイノベーション推進リサーチパーク

ホームページ：<https://i-warp.jp/>

紹介 YouTube：<https://www.youtube.com/@I-waRP>

依頼試験一覧：https://www2.pref.iwate.jp/~kiri/exam/bunseki/pdf/irai_tanka.pdf

機器貸出単価一覧：https://www2.pref.iwate.jp/~kiri/facility/tool/pdf/kiki_tanka_aiu.pdf

7 ページ

EMC 試験システム詳細：<https://www2.pref.iwate.jp/~kiri/facility/tool/emc.html>

8 ページ

岩手県発明協会 HP：<https://www.iwate-hatsumei.org/>

INPIT 詳細はこちら：<https://chizai-portal.inpit.go.jp/madoguchi/iwate/>